

## LCGT Collaboration Meeting 議事録

書記：森脇成典

監修：黒田和明

開催日時：2009年7月21日（火）午後1時30分～2時15分

ICRR 柏：中谷，黒田，大橋，三代木，我妻，齋藤（芳），高橋（竜），三尾，森脇，  
大前，森

東大理：麻生，高橋（走），穀山，松本

大阪市大：神田

KEK：鈴木

京大：中村，安東

Skype：山本，宮川

### 決定事項：

- \* 観測レンジの定義等に使っていた SN=10 を，今後 SN=8 に変更する。
- \* 本ミーティングの開催日を固定ルールで決める。  
原則として、毎月第一月曜日 14:00 に拡大ミーティング（3時間），第三月曜日 14:00 に通常ミーティング（1時間）とし，当該日が休日の場合は翌日。それぞれの開始前 30 分間にコーディネーター会議をもつ。

### 議事：

- 異動確認（黒田）  
新井氏が Caltech 40m へ。
- 予算関連（黒田）  
概算要求の本予算については動きなし。  
最先端研究開発支援プログラム基金への申請書を作成中。  
三尾：「7月24日と7月31日の二段階で書類を提出予定。低温なし，低周波の感度で頑張るという方針。SAS を1段は入れたい。」  
大橋：「予算が通ったらトンネル工期問題は何とかしてクリアするしかない。文科省には我々がプログラム基金に応募することを説明済みである。注意すべき点として，このプログラム基金へ応募するからと言って，従来の概算要求を捨てる訳ではなく，従来通り継続して要求する。プログラム基金では低温を入れなくても将来的に低温を導入する計画とつながるように設計される。」
- 真空（齋藤）  
60億円を切るかと思われたが，詳しく詰めると64億円となった。  
3社に分けて発注すれば納期はクリアできそう。置き場所は引き続き検討。

- 干渉計（安東）  
作業班会議を行った。ML に流した議事録参照。
- 干渉計制御（麻生）  
宮川，宗宮，麻生で進行中。次回 7 月 23 日 に会議を予定。
- 干渉計サポート（三代木），デジタル制御（宮川），レーザー，鏡（三尾）  
今回の報告事項は特になし。
- 低温（鈴木）  
寒剤が大量にあるわけではないので高圧ガス法令の問題は問題なさそう。鉦山保安法のほうが要注意ではないかという指摘が関係者からあった。
- データ解析（神田）  
評価方法を SN=10 から SN=8 に変更する。国際的な潮流に合わせるため。干渉計の性能を向上させろという話ではない。最適方向か全天平均かについては MG12 では両方使われていたので明示することに注意して両方使うこととしたい。
- 防振懸架（高橋）  
7 月 16 日に作業班会議を開いた。モデリング等について議論した。議事録は近日配布予定。9 月末に予定していた設計の決定は，10 月末に変更。
- 干渉計応答（安東）  
三尾：「リサイクリング共振器フォールドは？」  
安東：「干渉計制御作業部会の方で変復調とからめて考慮する必要があるためやや時間がかかる」  
麻生：「リサイクリング共振器長は 50m くらいになりそうだが真空設備の見積り上は？」  
高橋：「45m で見積もっている。2nd MC の長さは特に決めていないが 12m ユニット一本で済めば楽。」
- 予算獲得上の競合計画について（大橋）  
大橋：「競争相手のダークエナジーとの比較の上で，我々の共通認識をもちたい。相対論をからめてくるので重力波と近い業界と思われがち。」  
中村：「それほど気にする必要もないと思う。日本が寄与できる割合で見ると，重力波の方が優位ではないか。また，重力波は，観測できればブレークスルーになるので価値が大きい。」  
大橋：「ガンマ線バースト観測は？」  
中村：「観測により標準理論がほころんできたので，重力波の直接観測の期待はますます高まっている」
- 次回：8 月 3 日午後 2 時拡大会合，午後 1 時 30 分コーディネーター会議  
8 月 17 日午後 2 時拡大会合，午後 1 時 30 分コーディネーター会議